



技能実習生共同受入事業 活動報告

協同組合 維新
外国人技能実習生事業部

2018年4月より始まった外国人技能実習生共同受入事業は2020年4月で3年目を迎えます。現在3職種「とび」「仕分け」「介護」にて、ベトナム、ミャンマーからの技能実習生の受入れを行っています。

<とび>

2018年8月、受入第1号となったとび職の技能実習生は、1年目の技能検定試験を無事合格し、2年目の実習も半分を過ぎました。新たに3月より後輩となる実習生も配属され、現場に出られるよう、日本語の勉強と技能指導を受けています。



<仕分け>

1年間の短期技能実習となる、仕分け職種は現在、2019年10月から2期生が実習中です。実習を終え2019年9月に帰国した1期生の受入を経て、受け入れ先企業は受け入れ体制の見直しを行い、ベトナム人職員の数を増やしました。実習は短期間ですが、実習生達は寮で日本語の勉強をしっかりと続けています。うち1名は7月の日本語能力試験4級の合格を目指し、日本語ボランティアの方の協力のもと、勉強に励んでいます。

<介護>

新たな職種となる、「介護」の技能実習生の受入れが本格化します。今年の2月にはベトナムから4名の実習生が来日し、広島県江田島市の研修施設にて配属までの約1か月間、日本語やマナー、介護研修を受けています。4月から広島県呉市の介護施設に配属されます。4月以降は、広島県、山口県の介護施設にて、ベトナムおよびミャンマーからの介護技能実習生の来日を予定しており、受け入れ先の施設では、受け入れ体制の整備を進めています。



<監理団体許可の昇格に向けて>

徐々にではありますが、実習生事業の受入れ数は増加しています。今後の実習生受入数の増加および監理団体としての質を高める為、認可の種類を「特定監理事業」許可から優良団体である「一般監理事業」許可に昇格させることを目標に、法令遵守に努め、実習生および受入先組合員様のサポートに邁進して参ります。